



◀日本理化学工業(株) おおやますひろ 大山泰弘氏を迎え11月に障がい者就労講演会「働く幸せ」を開催。重度の知的障がい者を多く雇用している企業経営者の立場から、「経営者を含めて、周囲の人が障がい者が働ける環境にしなければいけない」

▼企業経営者を含め会場は多くの人が来場。先進的な取り組みに真剣な表情で、大山氏の講演を聞き入っていた



▲10月に開催された絆フェスティバルの様子。福祉施設などの物販コーナーや車いすサッカーなど多数のイベントを開催。町内会やボランティア団体の積極的なサポートによって支えられた(参加者数は約1,200人)

◀妊婦体験コーナー。「福祉とはどんなことか」親子で話し、考えることのきっかけとなった

高まるふくしの心は、私たちの心の奥底にあった幸せへの願い。この不変の願いを未来へとつなげていく



各町内会、商店会などで拡がりを見せる「ふれあいサロン」。疎遠になりがちな現代では「閉じこもり」など孤立化を防ぐため、地域ごとのコミュニケーションが大切になっている。参加することに加えて、運営に携わることも、有意義なものに。地域の特色、ニーズにあった「サロン」は地域住民の手による憩いの場になっている



スプリングタウン町内会「ふれあいサロン」

「福祉」と言えば「大変」のイメージが浮かびあがります。例えば実際に介護される方、介護をする方にとっては大変な気力と体力を要することですが、日常生活で自分の身に起こることを想像し、生活を送る人は少ないのかもしれない。介護を受けたり、誰かを介護するという現実是谁もが起こりうる問題であり突然やってくるものです。少子高齢化社会を迎え、85歳以上の方の4分の1に相当する方が認知症であるとも言われる今、認知症という病気に対する周囲の人、地域の理解を深めたり、高齢者の方が心身ともに元気に暮らすことができる地域づくりも重要になってきています。10人いれば10通りの福祉があることを前提に、一人ひとりが問題意識を持って生活する必要がある時代と言えます。「みんなでふくし大作戦！」ではこの「他人ごと」では済まされなくなっている福祉について、自らのこととして捉えてもらうきっかけづくりとなる事業を進めてきました。

地域の福祉を支えるためには、住民一人ひとりの努力(自助)、住民同士の相互扶助(共助)、公的なサービス(公助)の連携が大切ですが、その土台となるのは「ふくしの心」。「思いやり」「気づかい」です。コミュニケーションの基本「あいさつ」を交わすことは、良い人間関係を育み、「思いやり」や「気づかい」など心を育てる一歩となります。誰にでもできる行動であり、日ごろから習慣として